



ウサイン・ボルトが語る：

「カイロプラクティックが、ボクを助けてくれた！」

— Dr.アロン・マーティン



ウサイン・ボルトは「世界最速の男」として有名だ。世界陸上男子 100m で連勝を重ね、合計 8 個の金と 2 個の銀メダル、オリンピックにおいても 6 つの金メダルを獲得するなど、「Lightening Bolt:稲妻の閃光」の異名にふさわしい活躍を見せたが、実は身体的なハンデを持っていた。ジュニア世界選などでは、常にダントツ 1 位で、稀に 2 位になることもあったが、3 位になったことはなかった。

小さな離島・ジャマイカでは、ウサイン・ボルトは国家的英雄だ。彼は常に自信に満ち満ちている。「ボクは必ず No. 1 になってやる！って、みんなに言った。そしてその通りになったよ。」彼はレースで勝つことを決して疑わないかなりの自信家だが、その反面とても謙虚で誠実な人物だ。

「思いやりや礼儀はとっても大切だと思うね。例えばさ、大人になってもさ、道ゆく人全員に『おはよう！』っていうとかさ。そう、『全員』にだよ！ひとりもあいさつしないままで通り過ぎちゃいけないよ。」

陸上競技で成功を納め、世界的スターダムにのし上がるまでには、血の滲むような努力と苦勞の連続だった。少年時代、側湾症と診断され、その症状に苦しめられた。



「ボクが子供の頃は、側湾症もそれほど気にはならなかったんだ。でも、成長するにつれて、だんだん悪化してね。ボクの背骨の歪みかたがハンパじゃなくなっただけでね。陸上競技を始めたばかりの頃は大変だったよ。毎年ケガばかりしてたよ！」



背骨の歪みを矯正することを目的としたコルセット装着や、高い危険性を伴う外科手術等ではなく、ボルトはカイロプラクティックを選んだ。

「ボクは長年いっぱいトレーニングしてるじゃない。ケガもいっぱいしてるし、回復の努力も並大抵じゃなかったよ。でもやり遂げて来れた。」

ボルトはカイロプラクティックをケガからの治癒と早期回復のために活用するだけでなく、健康への意識を高め、彼のパフォーマンスを最大限に発揮するために受けている。「自分がいつもいい状態でいれさえすれば、誰もボクには勝てないよ。ホントだよ！」

カイロプラクティック神経学の認定医でもあり、ジャマイカ・オリンピックチームの専属カイロプラクティック医師でもある Dr.マイケル・ダグラスは、主治医として長年ボルトを診ている。Dr.ダグラスは 1996 年以來、伝統的カイロプラクティック治療とスポーツ医学を兼用したアプローチで、ジャマイカ代表選手たちのコンディション・アップに貢献して来た。



全ての世界チャンピオンと同様、彼の挑戦に終わりはない。「ボクにとって、何が大切か、自分でもよく分かってるつもりだよ。チャンピオンになるためにすべきことは何かをね。だから、そこにいつもフォーカスしてるんだ。」

ボルト選手にとって、カイロプラクティック・ケアは今まで、そしてこれからも健康であり続け、レースに勝ち続けるための作戦の一つとして欠かせないものようだ。